

ハートフル・トップが導く 情熱カンパニー

株式会社マーク電子 相模原市緑区橋本台

活路を見出す攻めの姿勢

「座して死すより、攻めて活路を見出す兵法あり…」。
そう述べる村山忠雄社長の顔には、幾多の逆境の中、自社を導いてきた武将のような貫禄が漂っていた。

マーク電子は基板の製造が主だが、時代の流れを読み、EMS(Electronics Manufacturing Service：設計から部品調達、生産、組立、検査、梱包までを一貫で請け負う業態)を行う会社に発展した。同社では、情報通信機器から医療機器、光学機器、制御機器、自動車機器、産業機器まで様々な分野を扱い、Made in Japan でしか作り出せない品質に自信を持っている。

村山社長は、多くの企業が海外進出する中で、日本の産業が弱体化することを懸念し、「日本でしかつくりえない品質にこだわっていく」と言う。冒頭の言葉に表れているように、「不況の今こそ攻めの姿勢が大切」と攻めの経営に重点を置き、「逆境もチャンスだ」と自分自身に言い聞かせ、活路を切り開いてきた。この会社の特筆すべき点は「新たな分野に積極的に打って出る姿勢にある」(村山社長)。

夢は力となって発展につながる

海外進出せず、日本でのモノづくりにこだわって会社を発展させる同社の攻めの姿勢とはどのようなものか。

その一つが品質力を武器にした医療分野への展開だ。「医療分野はこれからの高齢化社会に必要とされる」と感じた村山社長はプロジェクトチームを作り、特急試作課を新設、相模原市内で初めて医療機器の品質保証規格「ISO13485」を取得した。ISO13485はISO9001を取得した企業のうち、医療関連の製品に特化して品質維持を目的とする製造工程管理システムの世界標準規格で、同社が今後医療分野で売り上げを伸ばそうという意気込みの表れだ。現時点で、超音波診断器や主に原子力発電所で使われているサーベイメーター(被曝の有無を調べる装置)、骨密度を測る装置などの製造実績がある。さらに東京大学の研究室や他社と共同で新製品の開発を行うなど、さまざまな手を打っている。

また会社全体の士気を上げることを積極的に行っている。入社6年目の大石雄大課長代理は会社で働く際に夢を持ち続けることの大切さを語り、「自分たちを見て育っていく次の世代に大きな夢を与えられるようになりたい」と、日々意識して働いている。そうした社員のモチベーションの高さが、時代に応じて変わりゆく同社の発展を支えている。

マーク電子クオリティ

Made in Japan の品質保持のために、社員の教育訓練過程や情報のビジュアル化、新たな分野の開拓などにも取り組んでいる。教育訓練では品質に関わる業務や環境への配慮が必要な業務を行う従業員に対して、資格取得を義務付けている。具体的には、ハンダ付け、ネジ止め、検査といった作業をする社員が対象になる。特に環境への配慮が必要な取り組みでは、完全に鉛を使わない製造に対応している。鉛はハンダ付けに使われることが多かったが、信頼性が高い反面、適切に廃棄されないと水質汚染を招き、人体に悪影響を与えることから最近では敬遠されつつある。

また、社内で情報を共有し、仕事に対する意識や行動を変えていく取り組みを進めている。その一環として、同社では「M3030 作戦」を行っている。マーク電子の「M」、起業「30」周年時に掲げた「30」%の効率向上を目標とした作戦だ。作業能率を上げてコスト低減や納期の短縮を図ることで、より顧客のニーズに応えようとしている。

実際に工場内では、M3030 作戦実行のための標語が いろいろな場所に貼られ、改善のための工夫がなされている。たとえば「不良 1 秒 手直し 3 日 顧客の信用 3 カ年」と書かれた紙が部署ごとに貼られている。不良品を作るのは 1 秒でできるが、手直しには 3 日かかり、顧客の信用を取り戻すには 3 年かかる。不良品を出さない、信頼を大切にするために社員にいつも心がけて欲しいと、村山社長が掲げた標語だ。

また、「改善提案レース」を行い、社内の効率化に努めている。現場では問題点や改善案、予防効果や推定効果を明示している。こうした日々の努力が、Made in Japan にこだわりをもつ同社の品質を向上させている。

「絶対できない技術は あり得ない！」

かつて社内アイデアコンテストを開催した際、パートタイマーが腕時計型の電話を提案した。「そんなことはあり得ない」と言う人がいたが、その後、実際に提案された商品が開発されたことを知り、村山社長は絶対できない技術はあり得ないと思うようになった。

同社のホームページに「私たちは『時』を先取りしたソリューションを提案し、次世代のビジネスを創造します」という言葉がある。この変わりゆく文明社会で絶対できないと言われた技術を先取りし実現することが、新たなビジネスを生み出す。

今までの同社は「基板のスペシャリストの道」を歩んできた。これからは基板の製造だけでなく EMS の強みも活かし、相模原発の新しい技術を世界に向けて発信していくことだろう。日本人としての熱き想いを胸に秘めて。

企業からのメッセージ

自分としっかり向き合って、自分を今より少し成長させていくこと……。時代の変革を読み取る就活を！ピンチをチャンスに！！
(株式会社マーク電子 村山忠雄)

株式会社マーク電子

所在地	相模原市緑区橋本台1-3-2-1
代表者	村山 忠雄
資本金	7,000万円 創業 1977年 従業員数 73名
事業内容	情報通信機器・医療機器・光学機器・各種電子機器の設計～製造のEMSメーカー
電話(代表)	042(774)4131
ホームページ	http://www.markd.co.jp/

担当 小池和成 溝渕加純

